

令和7年度 旧本郷第一小跡地公園整備計画 第1回町民懇談会

■日時・場所

令和7年9月30日（水） 18：30～20：00

本郷生涯学習センター大会議室

■参加者

6名

■事務局

6名

■開催概要

旧本郷第一小学校跡地公園に関する令和7年度の予定を説明すると共に、基本設計及び管理運営計画（素案）の策定について進捗状況を報告し、質疑応答を行った。

■スケジュール

時間	実施内容
18：30～	1．開会 2．あいさつ 3．職員紹介
18：35～	4．今年度の予定 ①昨年度の振り返り（整備計画の策定） ②基本設計 ③管理運営計画（素案）
18：40～	5．基本設計について
18：50～ 19：20～	6．管理運営体制の検討について 7．質疑応答
19：55～	8．今後の予定
20：00	9．閉会

■内容

1. 開会
2. あいさつ
3. 職員紹介
4. 今年度の予定
 - ①昨年度の振り返り（整備計画の策定）
 - ②基本設計
 - ③管理運営計画（素案）

5. 設計について
6. 管理運営体制の検討について
7. 質疑応答

上記4～6について、事務局より資料を説明した後、質疑応答を行った。
質疑応答の概要は以下の通り。

○質問者

- ・水遊びイベント時における休憩所（ほんごうボックス）の利用状況は、どの程度であったか。

○事務局（コンサル）

- ・主に着替えスペースとして利用され、小さな子ども連れの方が休憩に利用していた。
常に多くの利用者がいるわけではないが、出たり入ったりしていた。

○質問者

- ・ほんごうボックスはいつから設定しているのか。

○事務局（コンサル）

- ・ほんごうボックスは令和6年度から実験的に設置したものであり、水遊び専用として設けたものではない。

○質問者

- ・ほんごうボックスの冷房設備はどのくらい必要か。
- ・単なる箱であれば、ほんごうボックスは不要ではないか。

○事務局（コンサル）

- ・去年は冷暖房設備がなく、寒さの影響により使用期間が限られていたため、今年は夏冬を通して利用できるようエアコンを設置した。
- ・今年度はイベント活動に加え、9月から開始した見守り活動の拠点としての役割も担っている。

○質問者

- ・子どもは休憩したいと思うかもしれないが、ほんごうボックスですぐ休憩できるようでは、子どもにとって本当に魅力的な公園ではない気がする。
- ・今日の会では、公園全体の方向性についても議論するのか。

○事務局

- ・本会は事業の途中経過の報告する趣旨である。

現時点で、基本設計や管理運営体制に関して、どのような検討を行っているかを説明する機会として設けている。

○質問者

- ・自然の用水路を活用し、火をたけるエリアもあるので、火と水、風と木をテーマにしたらおもしろい公園になるのではないかな。

- ・最近では長持ちする良い遊具もあるが値段も高い。

それよりも木を植えて、それがどう成長していくかを長い目で皆で見守っていく方が、子どもにとって良いのではないかな。

20年後に町に帰った時に成長した木を見た時に喜びや発見もあるだろう。

- ・水は用水路を活用すれば、せき止めるだけなので、水道料金の心配もないだろう。

- ・ただっ広い空間があり、丘など自然な地形を作るくらいで良いのではないかな。

遊具はよくある公園と同じなので、ない方が特徴を出せる。

- ・木を植えるなら食べられる実になる木が面白いのではないかな。

子どもたちが好きに採って食べることができ、眺めても面白い樹木が良い。

○事務局

- ・ご意見を参考に、基本設計において検討したい。

○事務局（コンサル）

- ・これまでの住民との検討の中でも、本郷の魅力である水路の流れを活用した施設を設ける案が出ていたが、水質面や転落可能性等の安全性、実際に運用していく際の維持管理の観点から課題が多く、話し合いの結果、自然の水路を使わない方向でまとまった。

○事務局

- ・天然の水路の活用は、衛生面において極めて危険であると判断している。

水道水を主として使用し、児童の安全を十分考慮した上で事業を進める方針である。

- ・整備計画の中でも、近隣住民による木の持ち寄りなども検討している。

具体的に何を植えるかは今後詰める予定である。

○事務局（コンサル）

- ・木に関しては、管理が重要であるとの認識を持っている。

例えば、落葉樹であれば、落ち葉の清掃が必要。

- ・実のなる木については、収穫祭のようなイベントもできるかもしれないし、検討の余地がある。

一方で、放置された場合には、獣害の発生が懸念されるため、慎重に検討する必要がある。

いずれにしても、詳細はこれからの検討のため、参考にさせていただきたい。

○質問者

- ・気軽に食べられるような木があったら大人でも行きたいと思うのではないかな。

○質問者

- ・管理や安全は重要だが、それが中心になると、わくわくや楽しむことが少なくなってしまう。

安全で管理がしやすいもので何ができるのかを考えていくようにした方が、制限されるエリアにならないのではないか。

- ・例えば、ブルーベリーを親子で自然栽培し、収穫するなど、自然に育てて味わうエリアがあってもいいのではないか。

○事務局（コンサル）

- ・子どもがわくわくすることを取り入れながら、どう安全を確保していくか、今後整備を進めていく上で必要な考え方である。

子どもたちが楽しい体験をできる場にできればと考えている。

○質問者

- ・せせらぎ公園とはどう差別化していくのか。

○事務局（コンサル）

- ・せせらぎ公園は主にオートキャンプやドッグラン等で利用されている。

また、まちなかから少し離れた河川敷に立地しており、子どもが行くには少し遠い。

- ・旧本郷一小跡地については、これまでの話し合いの中で、子どもが思いっきり走ったり、ボール投げしたりできるようにしたいとの思いがあった。

また、元小学校で、卒業生の思い出の場所であり、利活用方針のひとつでもある、子どもが自由に遊べる場所であることを重視してきた。

そのような点で、せせらぎ公園とは異なる性質を有していると考えている。

○質問者

- ・今の子どもたちはどちらかというと、与えられたもので遊んでいると感じている。

あまり大きく手を加えないで、何かを発見したり、体験できる、自分たちで遊びを考えることができる場所になると良いのではないかな。

○事務局（コンサル）

- ・同様のイメージを持っており、毎年開催してきた『ほんごうパークフェス』でも、創作や体験を大事にしてきた。

○質問者

- ・冬場の運営をどのようにイメージしているのか。

○事務局（コンサル）

- ・これまでの検討や調査の結果から、冬季の居場所として屋根のある場所がほしいとの声が多かったことから、計画においても建物を入れている。

- ・はらっぱの部分はどう使うかについては検討中。

令和6年度は、歳の神に合わせてイルミネーションイベントを実施し、多くの方が集まった。

その経験から冬季でも活用できる可能性が高いと認識している。

町民の皆様のアイデアで冬でも楽しめる方法を実践していけると良いと考えている。

○事務局

- ・昨年度は2月に雪山を作ってそり遊びをするイベントを検討していたが、豪雪の影響により実現に

は至らなかった。

冬季ならではの遊びを創出していければと考えている。

○質問者

- ・こうした取り組みを始める時は課題がたくさん出てくるが、それをまた強みに変える発想で作り上げるのが大事だと思う。

○事務局（コンサル）

- ・森と土と小山のエリアについては、雪山遊びなども想定して設定している。
 - ・管理運営に関して、夏季・冬季を問わず、子どもたちや地域住民に来ていただくためには、どのような運営上の工夫ができるか、そうした工夫ができる団体に運営してほしいとの考えから、今年度の検討を進めているところである。
- 今年度の業務の中で、どのような団体に依頼するかの基準作りも予定している。

○質問者

- ・予算によっては、整備イメージ図の内容が今後変更となる可能性はあるのか。

○事務局

- ・これまで町民の皆様と検討してきた実施計画および整備計画を基に、今年度の基本設計において整備費を算定しているところであり、12月に開催予定の町民懇談会において、金額をお示しできる予定である。
- その上で町民の皆様のご意見をお聞きしながら、今後について検討していきたい。

○質問者

- ・現段階での概算金額はあるのか。

○事務局

- ・現段階では、概ね8～10億円で見込んでいる。
- 基本設計ができ上がれば、概算ではあるが、より具体的な金額が出てくる。

○質問者

- ・その金額が実際に予算として確保されるのか。

○事務局

- ・補助金等の活用も十分考慮した上で実施したい。
- ・あくまで、令和5～6年度で作成した計画に基づいて、実際どれくらいかかるのかを算定しているところである。

○質問者

- ・建物に事務室があるが、そこに人を配置するイメージか。

○事務局（コンサル）

- ・配置するイメージである。

○質問者

- ・森と土と小山のエリアに火おこしとあるが、バーベキューのようなものか。

○事務局（コンサル）

- ・運営主体の運用の仕方にもよるが、例えば、防災キャンプなどの火おこし活動などを想定している。

○質問者

- ・東京・世田谷区にある「世田谷プレーパーク」では火おこしが自由にできる。
消防にも届出をした上で、子どもたちが自分で火をつけることができる。
ただし、プレーリーダーが近くで見守る必要がある。
そのようなスタッフを育てる必要がある。
スタッフの能力次第で遊び場の質が変わってくる。

○事務局（コンサル）

- ・将来、指定管理として協定を結ぶ団体からの提案がどのような形になるかによる。

○質問者

- ・世田谷プレーパークは怪我することを推奨しているユニークな公園。
ここに配置されるスタッフ次第で大きく変わってくる。
事務室でただ座っているだけの人ではうまくいかない。
こうした人材を育てる意識があるかどうかが重要。

○事務局（コンサル）

- ・そうしたことに関心がある方について、この検討に加わっていただきたい。

○質問者

- ・世田谷はNPOが運営し、その現場スタッフが地域スタッフも育てているようだ。
時間がかかってもその方向で頑張るのがいいのではないかと思う。

○事務局（コンサル）

- ・管理運営検討会においても、同様のことを話し合っているところである。
専門能力のある方に入ってもらったら、活気のある公園になるのではないかと話しており、引き続き検討していきたい。

○質問者

- ・町には色々な大人がいるけれど、子どもたちは知らないし、出会わない状況。
ここにいる大人たちが子どもたちに何を与えられるかでこの公園の意義が変わってくる。
自由に何してもいいよと言っても、子どもたちは遊び方を知らない。
そこに何を与えるかが重要で、その一つは遊具や火おこしなどの場の設計で、もうひとつは人の影響が大きい。

○質問者（コンサル）

- ・将来そのような場を作るためにも、イベント等で活動に関わってほしい。
・そういったことを常時して頂ける団体がいるかどうか重要。

○質問者（コンサル）

- ・社会全体を見渡して、この場所を一度に完成させる時代ではないと考えている。
段階的に、使いながら検証を重ねて、皆で一緒にこの場所を作り育てていく姿勢が重要である。

- ・全て行政に任せるということではなく、住民や外部からの方など色々な方が関わり、使っていただき、あの場所を一緒に作っていく必要がある。

○質問者

- ・宮川小の総合学習の一環で、昼休みに地域の大人を招き、一緒に遊んでもらった。
子どもが大人に電話してアポをとった。
子ども発信で大人を集めると大人は頑張ってくれる。
- ・受益者は子どもだが、今どれくらい子どもを巻き込んでいるか疑問。
地域の方々に関わってもらえない状況ならば、どうしたら関わってもらえるかを工夫する必要がある。
その際、子どもが活躍できるのではないか。
そういったことをしないと、結局子どもが使わない公園になってしまう。

7. 今後の予定

○事務局

- ・旧本郷第一小学校跡地では、9月より小学生を対象とした遊び道具の貸出を開始。
町民ボランティアによる活動であり、毎月貸出日を決めてカレンダーを発行しており、跡地のプレハブに掲示している他、町のホームページやほんごうパークファンのInstagramで更新しているので、ぜひご覧の上、現地に足を運んでいただきたい。
本取り組みは、11月末まで実施予定である。
- ・管理運営計画（素案）の策定にあたって、将来の利用者層や利用頻度等を把握し、運営における収入や管理費用の検討の参考とすることを目的とし、生涯学習センター等の町営施設において一定回数以上の利用実績を有する団体を対象としたアンケート調査を実施する予定である。
- ・次回の町民懇談会は12月頃の開催を予定。
- ・その他、旧本郷第一小学校跡地に関する予定は、広報、回覧、町のホームページ、LINE等でご案内するので、ぜひご参加いただきたい。

8. 閉会

以上